

テーマ
翻訳を通して中国理解を広げよう
目標
学習レベル 3～4 中国語で書かれた文章や記事を日本語に翻訳し、日本における中国理解を深めることができる。
コミュニケーション能力指標
【話題分野】地域社会と世界、行事、人とのつきあい ほか。 <u>地域社会と世界 3-b</u>：都市や町について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。 <u>地域社会と世界 3-e</u>：日本や中国の政治制度・地理・歴史・風俗習慣などについて書かれた文章を、読んで大意を理解できる。 <u>地域社会と世界 3-f</u>：現代や歴史上の著名な人物についての文章を、読んで大意を理解できる。 <u>行事 3-d</u>：相手の国の行事（年中行事、祝祭日、記念日、通過儀礼など）の過ごし方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。 <u>人とのつきあい 3-d</u>：相手の国の家庭や学校で守らなければいけないマナーやルールについて書かれた文章を、読んで理解できる。 <u>人とのつきあい 3-f</u>：日本と相手の国の人びとの好みや日常の習慣・つきあい方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。 ＝その他の話題分野のレベル3～4で挙げられている文章も対象となる＝＝＝＝＝＝＝＝＝ <u>自分と身近な人びと 3-f/4-c</u>：家族について書かれた文章／4-b：ライフストーリーや手記 <u>学校生活 4-c /4-d</u>：相手の国の高校（大学）生活の特徴や教育制度/受験について <u>日常生活 4-c</u>：いろいろな人のライフスタイルについての記事や番組 <u>食 4-a/4-b</u>：地域・季節・民族などによって多様な料理に関する資料／現代の若者の食生活 <u>衣とファッション 4-c</u>：相手の国の伝統服や民族衣装 <u>住まい 3-f/4-e</u>：相手の国の多様な住居（形態や住み方など）／住宅問題に関する記事 <u>からだと健康 3-f/4-a</u>：好きな人や有名人が行なっている健康法や体力づくり／健康や保健に関する文章 <u>趣味と遊び 3-e/4-c /4-e</u>：遊びやゲームのルールなどの説明書／余暇の過ごし方／労働と余暇 <u>買い物 4-d</u>：若者の消費行動についての新聞や雑誌の記事 <u>交通と旅行 3-b/4-d</u>：観光地の説明文やガイドブック／交通システムについて書かれた文章 <u>人とのつきあい 4-a /4-b</u>：通信手段（インターネット、携帯電話など）／宅配・郵便事業 <u>自然環境 3-a /3-c/4-a</u>：自然現象・自然災害／気候変動や環境問題 <u>ことば 3-c /3-d</u>：学んでいる言語の特徴／文字の成り立ちや特徴を書いた文章 ＊この単元では、上記各指標後半にある「読んだ上での感想・意見交換」は日本語でおこなうことを想定している。

学習シナリオ

<場面状況>

神田外語大学中国語専攻3,4年「中国語翻訳法Ⅱ」クラス(3,4年次の選択必修科目で例年25人前後が履修)では、中国語で書かれた様々な文章を日本語に翻訳し、家族や友人等身近な人にその翻訳作品を読んでもらうことを通して、中国理解を深めたい【＝単元目標】と考えた。

近年、日本を訪れる中国人観光客が増加し、日本国内で中国語話者と接する機会が日増しに増えている。街中の外国語表記や行政レベルの対応も重要だが、中国に偏見を持っていたり、あるいは無関心なために誤解をしている人に対して、その偏見や誤解を解くための第一歩として翻訳作品を作り、学習者がまずは自分の身近な人に(自分への理解も兼ねて)読んでもらうことにした。「多言語多文化共生社会」の実現に向けて、中国語学習を通じた市民性形成、21世紀型スキルの養成をも視野に入れたプロジェクト型学習である。2015年度より毎年、後期の後半8回前後を使っておこなうことを教員が提案し、学習者の賛同を得て進めている。

<活動の流れ>

- 1) **日本における中国理解の現状把握** まず3、4人でグループを作る。周囲の日本人に、中国に関するイメージや知っていることをたずねたり(アンケート調査してもよい)、日本の新聞や雑誌等どのような報道がされているか調べたりして、クラスで発表する。
- 2) **翻訳の素材選び** 【単元目標】を達成するためにどんな素材を翻訳したらよいかグループで話し合う。これまで日本ではあまり知られていないこと、日本人にぜひ知ってもらいたいことは何なのか、また自分たちが翻訳したいジャンルなど好みも考慮して素材を集め、グループで選定する。翻訳作品をどのような形で誰に紹介するかも考えながら決める[例:近所の小学校へ贈呈、大学内の掲示板やMULC(多言語コミュニケーションセンター)で展示等] *記事の出所に注意し、出典を明らかにする(原文のコピーを必ずとっておく)。
- 3) **個人で翻訳作業** グループで選んだ文章や記事を各自、次回の授業までに翻訳してくる。
- 4) **グループで翻訳修正作業** 翻訳文を持ち寄り、紹介する場と読者に合わせてグループで翻訳文を整える。翻訳を通して伝えたいことは何なのか、グループでよく話し合い、文体や体裁、どんな見出しをつけるか等を考える。フォントやサイズ等、レイアウトも揃える。
- 5) **クラス内で発表** 各グループが作成した翻訳文と、その発表形態・場所の案をクラスで発表し、他のグループに助言を求める。また教師にも提出し、翻訳チェックを受ける。
- 6) **翻訳作品制作** クラス内発表会で得たコメントを反映し、翻訳の精度を高め作品に仕上げる。また、自分たちが発表したい場所に掲示等が可能かどうか交渉する。
- 7) **翻訳作品の掲示/配布** できあがった翻訳作品を掲示/配布する。あわせて口頭で説明する機会もできるだけ作る。
- 8) **感想を集め目標達成度を確認** 翻訳作品についての感想をアンケートやインタビューで集め、クラスで発表し、【単元目標】を達成できたかどうか、クラスでディスカッションする。
- 9) **クラスでのふりかえり、まとめ** クラスで「翻訳作品集」としてまとめ、次年度の履修者の参考資料とする。「翻訳」とは何か、活動を通して感じたこと、学んだことをディスカッションする。

総括的評価
・ 【単元目標】を理解して素材選びをし、発表する場所や読者に合わせた適切な翻訳作品ができたかどうかをルーブリックで評価する。（教師の評価／学習者相互評価） ・ 翻訳作品についての読者の感想（アンケートやインタビュー）から【単元目標】の達成度をグループで自己評価する。あわせて各自の取り組み姿勢や協力度なども自己評価する。